

速読

20:20~20:30

『値段を考える 直売所』

構成確認	55秒
1回目 (低速)	4分16秒
2回目 (高速)	3分12秒
3回目 (要旨理解)	3分15秒

※2回目は、拾い読みでチャレンジしましょう！

「顔が見える」と人気 生産者が価格決定

値段を考える 直売所

米や野菜・果物を流通業者を介さずに購入できる直売所は、「生産者の顔が見える」と人気が高い。どのような仕組みなのか。生産者はどんなことを考えながら値段を付けているのか。千葉県の直売所で聞きまわった。

沼田千恵子

4月中旬の土曜日。千葉県東金市にある道の駅「みのりの郷東金」には、午前7時半ごろから生産者が次々とやって来た。野菜や果物を運び入れ、自分たちで棚に並べていく。

葉つきの大根やヤングコーン、さまざまな品種のイチゴ……産地に近い直売所ならではの農産物もあれば、大きな形がふそろいの野菜もあった。

スーパーで見かけるより細いアスパラガスは、少し低めの値がついていた。みのりの郷の担当者は「やわらかくて食べやすいですよ」。生産者から直接、野菜の出来や食べ方を聞き、買う人に伝えられるのも直売所の強みだ。

東金市は都心から約60キロ、県中央部にあり米や野菜作りが盛んな地域。みのりの郷を



今園百合さんの畑のソラマメ。収穫後は直売所に並ぶ。4月24日、千葉県山武市

運営するのは第二セクターの「東金元気づくり株式会社」で、2023年度の売り上げは併設するレストランと植木・花売り場も含めて約9億5千万円に上る。うち直売所が約7億8千万円を占める。

24年3月末時点で、農産物の出荷者は市内131人、市外139人。元気づくり株式

会社と出資契約を交わし、加入金1万円と年会費（市内5千円、市外1万円）を支払う。生産者が自分で値段を決め、販売をゆだねる委託販売方式をとり、生産者は売れたら15%の手数料を支払う。野菜は透明の袋に入れて名前と価格、バーコードが印刷されたシールを貼る。レジを通ると何がいくつ売れたか記録され、開店1時間後から閉店直後まで1時間おきに生産者にメールで連絡がくる。

時折、あまりに安い価格が

市況やスーパー参考に 野菜の出来も勘案

ついていることもある。そんなときは理由を聞きつつ、袋代やガソリン代などのコストや、かけた手間などの価値を反映した値付けになるよう、話を聞く。

道の駅長の内山大史さんは、「生産が軌かなくなったら意味がない。物価が高くなつたこの1年は特に、そう伝えたいです」。

生産者は何を参考に値段をつけているのか。納品時に何人かに尋ねると、卸売市場での取引価格や、ほかの生産者の値段を参考にしているケースが多かった。

隣の山武市から出荷する今園百合さん(40)は、2つの畑で両親と12種類の野菜を栽培している。市況とスーパーの店頭価格を見ながら、収穫した野菜の出来も勘案して値段を付ける。この冬は雨不足の影響などでキャベツの生育がよくなかったため、少し堅めのものは1個350円、といった具合だ。

トラクターの燃料や肥料など、さまざまな経費が2割ほど上がった実感があるが、「年間収支に困らないように」と考えて作っているという。

種まきのタイミングをずらし、水やり設備や畑の保温用ハウスも活用しながら、同じ品目を長期間栽培する。不作の時期があっても、前後の時期でカバーできるようにしている。

九十九里町の田口晴通さん(75)はエンジンから転身し、3年前に新タマネギの栽培を始めた。今シーズンには妻と息子と一緒に40畝を作付けた。

苗の育ちや収穫の歩留まりを考えて原価を計算し、値段を考える。息子に支払う給料などの人件費をはじめ、販売手数料、種や肥料代がかかる。この日は1袋3〜4個入りで275円をつけた。ほかの事業とあわせてようやく息子に最低賃金を払っている。

近隣では5月初めから出荷が増えるため、4月上旬の競合が少ない時期に出して、高めに売れるようにしている。

「直売所の醍醐味は自分の名前が売れること、自分で値段が付けられること」。

努力と工夫のしがいがあるという。

全国に2万店超

農林水産省の2023年度調査によると、農産物直売所は、期間限定で開設されるところも含めて全国に2万店以上（無人販売や移動販売は除く）。農家や農協、道の駅などが運営する。年間総売り上げは約1兆1300億円にのぼる。

ほかの農家の農産物も扱う直売所では約9割が出荷者から販売額に対する手数料を徴収している。生鮮品の平均手数料率は会員が14.8%、会員以外が15.9%。

◇感想の意見、取り上げは「テーマなし」
木村の「科学雑誌部へ。メール(seikatsu@asahi.com)で受け取りたい」。



FOOD発見

「顔が見える」と人気 生産者が価格決定

値段を考える

直売所

市況やスーパー参考に 野菜の出来も勘案

右直売所の開店前に生産者が野菜を
並べていた11月12日

今関百合さんの畑のソラマ
メ。収穫後は直売所に並ぶ
11月24日、千葉県山武市



全国に2万店超

農林水産省の2023年度調査によると、農産物直売所は、期間限定で開設されるところも含めて全国に2万店以上（無人販売や移動販売は除く）。農家や農協、道の駅などが運営する。年間総売り上げは約1兆1300億円にのぼる。

ほかの農家の農産物も扱う直売所では約9割が出荷者から販売額に対する手数料を徴収している。生鮮品の平均手数料率は会員が14.8%、会員以外が15.9%。

左生産者には直売所から売り上げ情報
のメールが届く。いずれも千葉
県東金市の「みなのりの郷東金」

より
2025年04月20日10時
時点の売上情報をお知らせ
します。

道の駅 みなのりの郷東金
レタス

150円

2点 300円

190円

2点 360円

アスパラガス

200円

1点 200円

220円

1点 220円

230円

4点 920円

250円

1点 250円

大根

120円

① 米や野菜・果物を流通業者を介さずに購入できる直売所は、「生産者の顔が見える」と人気が高い。どのような仕組みなのか。生産者はどんなことを考えながら値段を付けているのか。千葉県直売所で聞きました。

(沼田千賀子)

② 4月中旬の土曜日。千葉県東金市にある道の駅「みのり郷東金」には、午前7時半ごろから生産者が次々とやって来た。野菜や果物を運び入れ、自分たちで棚に並べていく。

③ 葉つきの大根やヤングコーン、さまざまな品種のイチゴ……。産地に近い直売所ならではの農産物もあれば、大きな形がふぞろいの野菜もあった。

④ スーパーで見かけるより安いアスパラガスは、少し低めの値がついていた。みのりのの担当者は「やわらかくてべやすいですよ」。生産者から直接、野菜の出来や食べ方を聞き、買う人に伝えられるのも直売所の強みだ。

⑤ 東金市は都心から約60キロ、県中央部にあり米や野菜作りが盛んな地域。みのりの郷を運営するのは第三セクターの「東金元気づくり株式会社」で、2023年度の売り上げは併設するレストランと植木・花売り場も含めて約9億5千万円に上る。うち直売所が約7億8千万円を占める。

⑥ 24年3月末時点で、農産物の出荷者は市内131人、市内139人。元気づくり株式会社と出荷契約を交わし、加入金1万円と年会費(市内5千円、市外1万円)を支払う。

⑦ 生産者が自分で値段を決め、販売をゆだねる委託販売方式をとり、生産者は売れたら15%の手数料を支払う。野は透明の袋に入れて名前と価格、バーコードが印刷されたシールを貼る。レジを通ると何がいくつ売れたか記録され、開店1時間後から閉店直後まで1時間おきに生産者にメールで連絡が届く。

⑧ 時折、あまりに安い価格がついていることもある。そんなときは理由を聞きつつ、袋代やガソリン代などのコストや、かけた手間などの価値を映した値付けになるよう、話をする。

⑨ 道の駅駅長の内山大史さんは、「生産が続かなくなったら意味がない。物価が高くなったこの1年は特に、そう伝えていきます」。

⑩ 生産者は何を参考に値段をつけているのか。納品時に何かに尋ねると、卸売市場での取引価格や、ほかの生産者の値段を参考にしているケースが多かった。

⑪ 隣の山武市から出荷する今関百合さん(49)は、2畝の畑で両親と12種類の野菜を栽培している。市況とスーパーの店頭価格を見ながら、収穫した野菜の出来も勘案して値段を付ける。この冬は雨不足の影響などでキャベツの生育がよくなかったため、少し軽めなのは1個350円、といった具合だ。

⑫ トラクターの燃料や肥料など、さまざまな経費が2割ほど上がった実感があるが、一年間で収支に困らないように「と考えて作っているという」。

⑬ 種まきのタイミングをずらし、水やり設備や畑の保温用ハウスも活用しながら、同じ目を長期間栽培する。不作の時期があっても、前後の時期でカバーできるようにしている。

⑭ 九十九里町の田口晴通さん(75)はエンジンニアから転身して、3年前に新タマネギの栽培を始めた。今シーズンは妻と息子と一緒に40畝を作付けた。

⑮ 苗の育ちや収穫の歩留まりを考えて原価を計算し、値段を考える。息子に支払う給料などの人件費をはじめ、販売などの数料、種や肥料代がかかる。この日は1袋3〜4個入りで275円をつけた。ほかの事業とあわせてようやく息子に最低賃金を払っている。

⑯ 近隣では5月初めから出荷が増えるため、4月上旬の競合が少ない時期に出して、高めに売れるようにしている。「直売所の醍醐味は自分の名前が売れること、自分で値段が付けられること」努力と工夫のしがいがあるという。

1

米や野菜・果物を流通業者を
介さずに購入できる直売所は、
「生産者の顔が見える」と人気が
高い。どのような仕組みなの
か。生産者はどんなことを考え
ながら値段を付けているのか。千
葉県の直売所で聞きました。

2

4月中旬の土曜日。千葉県
東金市とうがねにある道の駅「みのり
の郷東金」さとには、午前7時半
ごろから生産者が次々とやっ
て来た。野菜や果物を運び入
れ、自分たちで棚に並べてい
く。

3

葉つきの大根やヤングコー
ン、さまざまな品種のイチゴ
……。産地に近い直売所なら
ではの農産物もあれば、大き
さや形がふぞろいの野菜もあ
った。

スーパーで見かけるより細かいアスパラガスは、少し低めの値がついていた。みのりの郷の担当者は「やわらかくて食べやすいですよ」。生産者から直接、野菜の出来や食べ方を聞き、買う人に伝えられるのも直売所の強みだ。

東金市は都心から約60^{キロ}、
県中央部にあり米や野菜作り
が盛んな地域。みのりの郷を
運営するのは第三セクターの
「東金元気づくり株式会社」
で、2023年度の売り上げ
は併設するレストランと植木
・花売り場も含めて約9億5
千万円に上る。うち直売所が
約7億8千万円を占める。

6

24年3月末時点で、農産物の出荷者は市内131人、市外139人。元気づくり株式会社と出荷契約を交わし、加入金1万円と年会費（市内5千円、市外1万円）を支払う。

生産者が自分で値段を決め、販売をゆだねる委託販売方式をとり、生産者は売れたら15%の手数料を支払う。野菜は透明の袋に入れて名前と価格、バーコードが印刷されたシールを貼る。レジを通ると何がいくつ売れたか記録され、開店1時間後から閉店直後まで1時間おきに生産者にメールで連絡が届く。

全国に2万店超

農林水産省の2023年度調査によると、農産物直売所は、期間限定で開設されるところも含めて全国に2万店以上（無人販売や移動販売は除く）。農家や農協、道の駅などが運営する。年間総売り上げは約1兆1300億円にのぼる。

ほかの農家の農産物も扱う直売所では約9割が出荷者から販売額に対する手数料を徴収している。生鮮品の平均手数料率は会員が14.8%、会員以外が15.9%。

左生産者には直売所から売り上げ情報
のメールが届く。いずれも千葉
県東金市の「みよりの郷東金」

より
2025年04月20日10時
時点の売上情報をお知らせ
します。

道の駅 みよりの郷東金
レタス

150円

2点 300円

190円

2点 360円

アスパラガス

200円

1点 200円

220円

1点 220円

230円

4点 920円

250円

1点 250円

大根

120円

時折、あまりに安い価格が
ついていることもある。そんなときは理由を聞きつつ、袋
代やガソリン代などのコスト
や、かけた手間などの価値を
反映した値付けになるよう、
話をする。

道の駅駅長の内山大史さん
は、「生産が続かなくなった
ら意味がない。物価が高くな
ったこの1年は特に、そう伝
えています」。

9

生産者は何を参考に値段をつけているのか。納品時に何人かに尋ねると、卸売市場での取引価格や、ほかの生産者の値段を参考にしているケースが多かった。

隣の山武市^{さんむ}から出荷する今
関百合さん(49)は、2畝の畑
で両親と12種類の野菜を栽培
している。市況とスーパーの
店頭価格を見ながら、収穫し
た野菜の出来も勘案して値段
を付ける。この冬は雨不足の
影響などでキャベツの生育が
よくなかったため、少し軽め
のものは1個350円、とい
った具合だ。

トラクターの燃料や肥料など、さまざまな経費が2割ほど上がった実感があるが、「年間で収支に困らないように」と考えて作っているという。

種まきのタイミングをずらし、水やり設備や畑の保温用ハウスも活用しながら、同じ品目を長期間栽培する。不作の時期があっても、前後の時期でカバーできるようにしている。

九十九里町の田口晴通さん
(75)はエンジニアから転身
し、3年前に新タマネギの栽
培を始めた。今シーズンは妻
と息子と一緒に40^ルア^ーを作付け
した。

苗の育ちや収穫の歩留まりを考えて原価を計算し、値段を考える。息子に支払う給料などの人件費をはじめ、販売手数料、種や肥料代がかかる。この日は1袋3〜4個入りで275円をつけた。ほかの事業とあわせてようやく息子に最低賃金を払っている。

近隣では5月初めから出荷が増えるため、4月上旬の競合が少ない時期に出して、高めに売れるようにしている。

「直売所の醍醐味は自分の名前^{だいご}で売れることと、自分で値段が付けられること」

努力と工夫のしがいがあるという。